

やまがた旬な夫婦

新聞ざとみさん

平成15年「ざとみの漬物講座(企業組合)」を立ち上げ、以来漬物を通して姑世代と嫁世代の交流を図りながら漬物を現代風にアレンジ、レンジを作り普及・伝承に努めています。内閣府より、平成22年度「女性のチャレンジ賞」を受賞。農業委員。



新聞徳次郎さん

醤油・味噌醸造業を営みながら、伝統の餅つきを守る「大曾根餅つき保存会」の代表として、県内外で出張餅つきを行っています。昨年一年間で180回を超える餅つきを実施。県「食育名人」として、食に関する活動を実践しています。社会教育委員。

◎今はどんな活動を？

◎徳次郎さん

餅つきと味噌作り講座などで各地を飛び回っています。東日本大震災の2週間後、被災地へ餅つきに行きました。宮城や岩手での餅つきは今も続けており、楽しみに待っていてくれる人がいます。みんなの笑顔に元気をもらい、励みになっています。これから仙台に行きます。

◎ざとみさん

漬物や味噌作りの講座のほか、新聞コラム連載の原稿を書いたり、TV出演や講演をしています。

◎お二人で一緒に仕事をされるのは？

◎徳次郎さん

初めの頃は、味噌作りも餅つきにも妻と一緒に来てもらっていたのですが、最近ではお互いの日程がぎっしりで、各自で行動することが多くなっています。

◎ざとみさん

私が、県外で泊まりの仕事の依頼があつて迷っていると、「行きなさい。色々見たり味わったりして体験して来なさい。」と背中を押してくれます。夫は子育てを頑張って出してくれますので、安心して出かけられます。お義母さんも夫と同じ考えなので、本当にありがたいです。



◎どうしてそんなに理解があるの？

◎徳次郎さん

以前、男女共同参画センター「ファアラ」の運営委員をしたことがあり、その時に勉強したことが、今に繋がっていると思います。妻がやりたいことには「応援するよ」と外に出るよ。「言っています。最近山形でも女性のPTA会長が増えているし、学生をみると女子の方がしっかりしています。「男子よ、もっと頑張れ！」と言いたいです。

◎お互いに忙しく、二人で話す時間はありますか？

◎徳次郎さん

この頃はあまりないですね。お互い信頼しているから、「こまめに話さなくても解



やまがたの旬なレシピ

春の「ひけもの」

春野菜500g(春キャベツ、アスパラ菜1さつと熱湯をくぐす、水菜、人参、きゅうりなど)と塩10gをビニール袋に入れ、シャカシャカして塩を全体に。差し水カップ2を入れて、空気をぬいてしばらく、冷暗所に。半日程で出来上がり。

編集協力員 後藤 桂子

ちびっ子「父子家庭」の実状

父子家庭になった父親たちのサークル「フルお父さん」。母親役もこなして、毎日全力でフルに生活していることを表しています。男女共同参画センター「ファアラ」において、父子家庭の本音をうかがいました。

きつい 仕事探し

A氏 三十代 (長女 小学一年)

父子家庭になったのは、長女が二歳半の時です。父親として、ひとりで子育てをしていくとなると仕事にも影響が出て、二度転職を経験しました。就労していないと認可保育園に入園できないため、幼い子どもを抱えての就職活動はかなり厳しいです。子育てとの両立という条件を考えると、仕事の内容がかなり限定されます。日中の仕事は、女性の労働力が求められており、アルバイトすら無い状況でした。書類が通っても父子家庭というだけで決まらな。九ヶ月間の職探しようやく就職できました。

平等でない「父子家庭」と「母子家庭」の現実

A氏が就職活動でハローワークに通っていた時のことです。



民間アパートでの生活は、家賃が高く経済的にかなり厳しかった。保育料、家賃、光熱費、おむつ代。食費にも事欠く生活でした。財布にはたったの百円という日もありました。父子家庭になって、体重が10kgも減りました。あまりにもきつい生活なので、自分と同じ境遇の人とはどんな状況だろうと思ひ、面識は無かったが、ある市議会議員にメールで相談を持ちかけました。「サークルを作つては」というアドバイスから、チラシを作り、放課後児童クラブなどに配布しました。そして、二人の方が賛同してくれました。「同じ悩みを持つ人と

『SOS』を発信

「母子家庭」と比べて、「父子家庭」への支援は少ない状況のなか、要望することで改善の動きが出てきているようです。

「正社員」から「パート」へ 収入半減の生活

B氏 五十代

(長男 中学一年・長女 小学四年)

就労時間は、朝九時から夜七時までです。子育てをしていく上でも、会社には迷惑を掛けられないため、正社員からパートに切り替えてもらいました。しかし、収入は半減し生活は厳しくなりました。当初は同居している高齢の父が、家事を手伝ってくれていましたが、以前のようにはいかなくなってきました。

小中学生のいる家庭への^{※2}「就学援助制度」と、医療費の助成が受けられる^{※3}「親子健やか医療給付制度」は経済的に助かっています。また、^{※4}「ひとり親家庭子育て生活支援事業」を受け、炊事を支援してもらい食事にメリハリがで有り難いです。

このサークルに参加して、自分の考え方も少しずつ変わってきました。仕事、家事、近所とのつきあひと毎日が忙しいです。でも、子育てが最優先。自分の事は後回しです。

仕事への支援を

行政へ支援して欲しいことは、ひとり親への就職支援です。皆と同じ土俵ではどう



しても厳しいです。また、娘が熱を出した時、仕事を休むことがむずかしいので、一時的に預かって見てくれる施設があればと思います。

「フルお父さん」では、参加者募集中です。毎月1回、日曜日の午前10時から正午までファアラで活動しています。問い合わせ先 長岡氏090(8929)1374へ。

※1「児童扶養手当」…ひとり親家庭の親が児童を養育している場合などに手当を支給。(問・こども福祉課 内線575)

※2「就学援助制度」…経済的理由により就学が困難な家庭に、学用品・給食費などの就学費用の一部を援助。(問・学校教育課 内線484)

※3「親子健やか医療給付制度」…18歳以下の児童を扶養しているひとり親家庭等が、医療機関で診療を受けた際に保険診療分の自己負担が無料になる。(問・こども福祉課 内線576)

※4「ひとり親家庭子育て生活支援事業」…ひとり親家庭の親が、病気や急な仕事等で、家事や育児が一時的に困難なときに生活を支援。(問・こども保育課 内線579)

編集協力員 今野 久子